

ENJOY ROTARY

ROTARY CLUB



# Fukushima Chuo

◆ 福島中央ロータリークラブ ◆  
since 1990

2025年8月20日(水)

第6回(通算1633回) エフズサンパレス  
「ガバナー公式訪問・ガバナー補佐訪問例会」

よいことのために手を取りあおう



## 福島中央ロータリークラブ会報

事務局 〒960-8051 福島市曾根田町4-22  
TEL:024-526-7211 FAX:024-526-7212  
E-mail:info@fukushimachuo-rc.com



HP

### 会長あいさつ 2025-26年度会長 鈴木 努



皆さんこんにちは。先程、ご紹介させていただきました泉田征慶ガバナー他、地区役員、分区役員の方にご出席いただきましての、クラブ協議会お疲れ様でした。

泉田征慶ガバナーには早朝から私共会長・幹事との懇談、そしてクラブ協議会では、私共福島中央ロータリークラブの今年度の予定について、ご意見、ご講評をいただきました。ありがとうございました。これからの活動にか

たいと思います。

当クラブは、今、世代交代を図るべき時に来ています。その意味では今日ガバナー公式訪問の席で新しい会員「浅野 紘太」さんの、入会式が行われることは、大変嬉しいことです。

国際ロータリー第2530地区の、今年目標の一つでもあります。会員増強の活動を今後とも、力を入れて進めてまいりたいと思います。今日は大変貴重な時間です。有意義な例会にしたいと思いますので、会員の皆様にはご協力よろしくお願いたします。

# Fight!



### 例会次第

- ◇会長・幹事懇談会 会場:福島テルサ
- ◇クラブ協議会
- ◆開会点鐘 鈴木 努会長 会場:エフズサンパレス
- ◆国歌斉唱「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」  
ソングリーダー 坂本 和司会員
- ◆「四つのテスト」唱和  
職業奉仕委員会 丹野 良一委員長
- ◆お客様並びに来訪ロータリアンの紹介  
・国際ロータリー第 2530地区2025-26年度  
泉田 征慶 ガバナー  
相良 元章 県北第一分区ガバナー補佐  
小黑 敬三 地区代表副幹事  
三宅 一秀 県北第一分区分区幹事  
岩見 孝之 県北第一分区分区幹事  
吉田 政輝 浪江ロータリークラブ理事
- ◆新会員入会式 浅野 紘太新会員
- ◆新会員へガバナーよりロータリーバッジの贈呈



- ◆カウンセラー委嘱状の交付  
・カウンセラー 植木 博隆会員
- ◆新会員あいさつ 浅野 紘太会員
- ◆会長あいさつ 鈴木 努会長
- ◆お食事をどうぞ
- ◆幹事報告 菅野 幸一幹事
- ◆ガバナースピーチ  
国際ロータリー第 2530地区2025-26年度  
泉田 征慶 ガバナー
- ◆ガバナー補佐あいさつ  
国際ロータリー第 2530地区2025-26年度  
相良 元章 県北第一分区ガバナー補佐
- ◆閉会点鐘 鈴木 努会長

# ガバナー公式訪問クラブ協議会



## 新会員入会式

### 浅野 紘太新会員

(会員増強委員会)

この度、新規入会をご承認いただきました浅野紘太と申します。

今日は、泉田ガバナー、相楽ガバナー補佐を始めとする多くの皆様がいらしている例会の場で、このような機会を頂戴しまして誠にありがとうございます。

私の社業においても地域貢献や街づくりに関する業務も多いため、福島中央ロータリークラブでの活動を通して「奉仕」の心を育み、クラブに貢献するとともに自身の活動にもその学びをいかして行きたいと考えております。若輩者でございますが、諸先輩の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



泉田ガバナーよりロータリーバッジの贈呈

## カウンセラー委嘱状の交付



浅野 紘太新会員カウンセラーの植木 博隆会員

### 本日の出席率

会員数	41名
出席者総数	29名
うち出席免除会員出席	3/4名
<b>出席率</b>	<b>72.5%</b>

# 泉田 征慶ガバナー公式訪問例会



## 泉田 征慶ガバナー スピーチ

7月30日にすばらしいガバナー歓迎会を開催していただき感謝しております。

福島中央RCさんからはお二人のパストガバナーを含め7人もの出向者を輩出していただいております。それぞれの方が委員長、副委員長を引受けていただいております。地区への多大なるお力添えに感謝しております。2018-19年度平井ガバナー年度にクラブ会長を務め、2019-20年度芳賀ガバナー年度には、相双分区の分区幹事を務めました。お二人のパストガバナーには当時より大変お世話になり、現在でも細部に至るまでアドバイスをいただいております。大好きな先輩ロータリアンが沢山いらっしゃるクラブですので、楽しみにしてきましたが、残念なのは、佐藤龍史さんが本日いらっしゃらない事です。とても寂しく思います。

浪江RCは東日本大震災後、テリトリーの3町1村はすべて帰還困難区域に指定されすべての住民が避難を余儀なくされました。私を含め、ほとんどのメンバーがクラブの存続は不可能だと考えました。そんな中、県内外のロータリアンからのご支援、温かいお言葉をいただき現在、浪江RCと富岡RCは存続出来ております。心より感謝しております。ありがとうございました。



こちらの写真は、先月6月のカルガリー国際大会の期間中に撮影されたものです。

本来であれば2月にフロリダでの国際協議会での写真が使われる予定だったのですが、RI会長が辞任されたことを受け、その写真が使用できなくなり、急ぎよこちらの写真が使われることとなりました。

この写真は、国際大会の開会式当日の朝に行われた日本人朝食会で撮影されたものです。

フランチェスコ・アレツツォ会長が、急ぎよ来賓としてお越しくださり、食事の合間に時間を割いてこの写真を撮影してくだ

さいました。撮影自体も予定されていなかったため、即席で背景を設えて、かなり慌ただしい中での撮影となりました。

アレツツォ会長はこの写真の撮影時点で、就任からわずか1週間というお忙しい時期でしたが、それでも我々のために時間を作ってください、写真に収まってくださったことに深く感謝しております。

このような対応は、おそらく世界中でも、日本だけだったのではないかと思います。

自己紹介	
氏名	泉田 征慶(いずみだ ゆきたか)
所属RC	浪江RC
生年月日	1966年12月23日
入会年月日	2008年7月(17年)
職業分類	土木建設業
最終学歴	日本大学工学部建築学科 卒業
職歴	1989年 庄司建設工業㈱入社 1994年 ㈱泉田組入社 一級建築士
現職	福島県建設業協会 理事 双葉支部 支部長 浪江町復興事業協同組合 副理事長
ロータリー歴	2017-18年度 地区職業奉仕委員会出向 2018-19年度 クラブ会長 2020-21年度 地区米山奨学会委員会出向 2021-22年度 //
	2022-23年度 地区米山推進委員長
	2023-24年度 ガバナー/ミニー
	相双分区ガバナー補佐
	2024-25年度 ガバナーエレクト
	2025-26年度 ガバナー

改めて私の自己紹介をさせていただきます。

私は、浪江ロータリークラブに所属しており、現在58歳になります。ロータリー歴は今年で17年となります。

職業は建設業で、株式会社泉田組の代表を務めております。

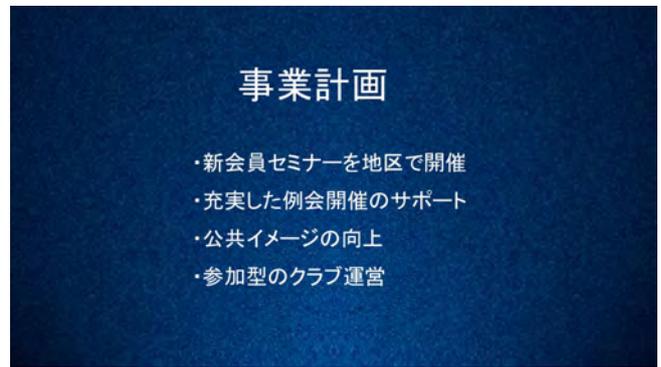
浪江ロータリークラブについて			
	震災前	震災直後	現在
会員数	約50名	約30名	50名
例会場	如水 (浪江町)	きち博 (福島市)	如水 (浪江町)
例会数/月	4回	1回	2回
年会費	18万円	12万円	15万円
平均年齢	59.8歳		60.5歳

現在の浪江RCについてお話をさせていただきます。

震災前、浪江ロータリークラブには50名の会員が在籍しておりましたが、震災直後には全員が避難を余儀なくされ、例会も開くことができない状況が続きました。

そんな中、福島市にて飲食店を再開した会員の店を拠点として、少しずつ活動を再開しました。当時は、全国に散らばった会員が集まるだけでも、それ自体がひとつの大きな事業のようでした。

そして今では、例会場を浪江に戻し、月2回ではありますが、例会を継続開催できるまでになりました。会員数も50名を超えるところまで回復しております。



次に、RI会長についてお話いたします。

2025-26年度の国際ロータリー会長には、イタリア・シチリア島のラグーザRCに所属する、フランチェスコ・アレツツォ氏が選ばれました。

もともとは、ブラジルのマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏が会長エレクトとして決定していましたが、6月8日に辞任され、それを受けて、2023年の会長指名委員会の候補者の中から、アレツツォ氏が新たに選出されました。

会長メッセージとして発表されていた「よいことのために手を取りあおう」というスローガンは、そのまま引き継がれることになっています。

アレツツォ氏は矯正歯科医で、個人の診療所を経営されています。またRI理事、地区大会での会長代理、ラーニングファシリテーターなど多くの役職を経験され、ロータリー財団のメジャードナーでもあります。

今回の就任に際しては、週末にはお孫さんと遊んでいたにもかかわらず、火曜日にはすでに飛行機に乗り、RIの仕事に入っておられたということで、準備期間は通常2年であるところを、わずか2週間で対応されたとのことでした。

**2530地区会員数  
3年間の推移**

会員数	2302人
3年後の会員数	2199人
増減数	-103人 (-4.5%)
3年間の新会員数	771人 (33.5%)
3年間の退会者数	874人
新会員の退会者数	209人
新会員の退会率	27.1%

次に、地区の会員数の推移についてご説明いたします。

こちらは、我々第2530地区の過去3年間の会員数のグラフです。

詳細はスライドをご覧くださいのですが、この数値を見ると、明らかに会員数が減少傾向にあることが分かります。

この状況を受けて、やはり退会防止にもっと力を入れなければいけないと、強く感じしております。

そこで、次のスライド以降では、そのための具体的な事業計画についてお話してまいります。

それでは、私が考える地区の事業計画についてご説明させていただきます。

まず一つ目は、「新会員セミナーを地区で開催すること」です。

これまでは分区単位で行ってきた新会員セミナーですが、今年度からは地区として開催する予定です。

地区で行うことによって、過去にガバナー経験のあるパストガバナーの皆さまから、ロータリーの魅力や意義を直接語っていただける機会が得られます。

また、県内各地のクラブに所属する会員と顔を合わせ、知り合いを増やすきっかけにもなります。

同じタイミングで入会した同期のメンバーとつながりができるという意味でも、大変有意義な場になると思います。

次に、「例会の充実を支援する」ことです。

ロータリーの基本は、やはり例会です。例会が活発であれば、クラブも自然と活性化します。

そのためにも、良い例会が開けるように地区としてサポートを行いたいと思っております。

たとえば「卓話バンク」のような、講話者の情報を共有する仕組みを整えることで、クラブごとに内容の濃い例会が行えるようになると考えています。

三つ目は、「公共イメージの向上」です。

これまでロータリーは、どちらかと言えば“陰徳を積む”ような姿勢で活動してきましたが、それが結果として外部からの理解を得られにくくなり、会員減少にもつながっているのではないかと感じています。

さらに、入会から3年未満で退会された方の中には、そもそもロータリーがどんな活動しているのかを知らないままだった、というケースもあったようです。

現会員の中にも「ロータリーってどんな活動してるの?」という方が、実は少なくないかもしれません。

ですので、外に向けたPR活動はもちろん、クラブの中でもロータリーの価値や活動をしっかり伝える、いわゆる「対内的な広報」も非常に重要だと考えています。

そして最後に、「参加型クラブ運営」についてです。

どのクラブでも見かける光景かもしれませんが、どうしても委員長だけが一人で奮闘してしまっているケース、ありますよね。

本来であれば、委員会のメンバー全員が協力して事業を作っていくことが、充実したロータリー活動につながるはずです。

そのためには、事業の「活動段階」から委員全員が関わって、自分たちで企画することが大切だと思います。

自分で関わった計画なら、当然その後の実行にも積極的になれる。そんな仕組みを皆さんと一緒につくっていきたくて考えております。



先ほど、対内的なPRの必要性について、少し触れましたが、ここでもう少し詳しくお話させてください。

私も、地区に出向するまでは、ロータリークラブがどんな活動しているのか、正直なところよく分かっていませんでした。

おそらく、多くの方々も同じではないかと思えます。

地区に出向したとしても、実は隣の委員会でも何をやっているのか知らない、というのが普通なんですね。

私は長く米山奨学会の委員会に出向していましたので、その分野についてはある程度理解がありますが、それ以外の委員会については、正直詳しくありませんでした？

ですので、本日はあらためて、皆さまにロータリーを代表する事業のひとつ、「ポリオ根絶活動」についてご説明させていただきます。

ロータリーとポリオ根絶活動への関わり	
1985年	ポリオに関するプログラムを立ち上げた。
1988年	世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)のパートナー団体との協力を開始 125カ国で35万件以上の発症が確認。
	以来、約30億人の子どもにポリオの予防接種を行い、発症数は99.9%減少している。
	ビル&メリンダ・ゲイツ財団との2:1マッチング寄付
	25億ドル(3600億円)以上を拠出している
	尾身茂氏はロータリーのポリオ根絶アンバサダー

「ポリオ」と聞いても、若い方などにはあまりピンとこないかもしれません。言われる「小児麻痺」のことです。

ロータリーはこのポリオ根絶に長年取り組んできました。

「世界ポリオ根絶イニシアティブ(GPEI)」という国際的な枠組みに加盟し、政府や民間からの支援を受けながら、世界中の感染者ゼロを目指しています。

ロータリーの会員は、継続的に資金援助を行っており、世界中のポリオ患者数は年々大幅に減少してきています。

ちなみに、尾身茂先生(後に新型コロナの分科会会長として有名になりました)の公演を聞いたことがあります。1988年、尾身先生が、WHOのポリオ根絶活動の担当だったらしく、国際ロータリーと交渉をしていたのが尾身先生で、ロータリーからの寄付が呼び水となって資金が集まり始めたこと感謝をしておりました。現在はロータリークラブのポリオ根絶アンバサダーをお務めいただいております。

ポリオ患者数の推移	
年	罹患者数
1988年	約350,000人
2000年	約2,971人
2010年	約1,352人
2015年	約74人
2020年	約140人
2021年	6人
2022年	30人
2023年	12人
2024年	99人
2025年(6/16現在)	13人 (11:パキスタン、2:アフガニスタン)

こちらのグラフは、ポリオにかかっている方の推移を示したものです。

1980年代には35万人近くいた患者数が、今では年会数十人まで減少しています。

しかし、実はこの「最後の1%」をゼロにするのが一番難しいのだそうです。これは、どのウイルス根絶活動でも同じことだそうです。

1人でも患者がいれば、そこから再拡大の可能性があるため、最後の最後まで気を抜けない、というのが現場の声だそうです。

世界ポリオ根絶イニシアティブ(GPEI)への寄付者		
・世界ポリオ根絶イニシアティブ(Global Polio Eradication Initiative: GPEI)への寄付について、G7やG20などの国々や民間セクターからの寄付者リスト(2023年度 Annual Report 2023より抜粋)		
(上位寄付者のみ抜粋)		
第1位	ビル&メリンダ・ゲイツ財団	US\$ 471,802,000(52%)
第2位	国際ロータリー	US\$ 150,472,000(16.5%)
第3位	アメリカ合衆国	US\$ 116,995,000(13%)
第4位	カナダ	US\$ 64,312,000(7%)
第?位	日本	US\$ 3,492,000(0.4%)
総計		US\$ 910,774,000(100%)

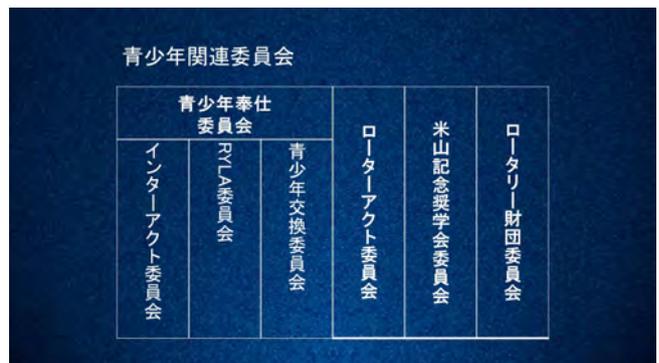
ポリオ根絶のためには、やはり資金的な支援が不可欠です。

ロータリーは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と連携し、世界中で寄付活動を行っています。

RIが中心となり、G7やG20といった各国政府とも連携しながら、ワクチンの提供や現地での接種活動などを支援しています。

こうした国際的な枠組みの中で、我々ロータリアンの寄付が確実に生かされている。

その誇りを持っていただきたいと思います。



続いて、青少年関連の事業についてお話いたします。

ロータリーでは、国際的な理解や親善の精神を育む目的で

「青少年交換事業」という活動を行っております。

実はこの取り組み、1920年代からヨーロッパを中心に始まった歴史のあるプログラムなんです。

**青少年交換事業**

目的:  
国際理解と親善の精神を育み、平和を推進するため、15~19歳の青少年に、外国での異文化体験の機会を提供するもの。言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養う。プログラムは長期交換(1年)、短期交換(数日から数カ月間)の2種類がある。

- ・日本では1960年頃から
- ・最初はオーストラリアやアメリカとの交換が中心
- ・世界100か国以上で毎年約9,000人以上の高校生が交換に参加
- ・ホームステイ(3ヶ月×4家族)

この青少年交換事業は、15歳から19歳の高校生を対象として、海外での異文化体験を通じて、言語や文化を学びながら世界市民としての自覚を育てるというもので、1年間の長期交換のプログラムです。

日本では1960年ごろから参加するようになり、当初はオーストラリアやアメリカとの交換が中心でしたが、今では世界各国と広くつながりがあります。

交換では1対1の関係で成立しますので、たとえば「アメリカに行きたい」と希望すれば、こちらでもアメリカからの学生を受け入れる必要がある、という仕組みになっています。

希望しても相手国から日本を選んでももらえないと成立しない、という難しさもありますが、それでも現在、世界100か国以上で毎年9,000人以上の高校生がこの事業に参加しています。

ホームステイは3か月ごとに家庭を移動する形式で、4つの家族で生活することが一般的です。

たった半年の海外経験でも、学生たちは驚くほど成長して帰ってきます。

1年後に再び会った時には、本人に別人のようにしっかりした表情になっていたり、自信に満ちていたりします。

この経験が、彼らの人生の中で最も成長した一年になることも多いんです。

そして、将来はロータリアンとして活躍してくれることを、私たちは大いに期待しています。

これだけ素晴らしい事業を地道に作っているロータリー。

実は、そんな私たちの活動を、客観的に評価している団体があります。

**Charity Navigator**

( チャリティーナビゲーター )

世界最大級の非営利団体評価機関の一つで、23万以上の団体を対象に、財務健全性・透明性・社会的インパクトなどから客観的に評価しています。

アメリカに本拠を置く「チャリティーナビゲーター」は、世界

最大級の非営利団体評価機関のひとつです。

約23万団体を対象に、財務の健全性や透明性、社会的インパクトといった観点から、第三者的に団体を評価しています。

**Charity Navigator**

信頼できる寄付のための羅針盤

意義ある寄付を、  
すべての人にとって簡単にすること

このチャリティーナビゲーターの目的は、「信頼できる寄付を行うための羅針盤となること」です。つまり、「せっかく寄付をするのであれば、意義のあるところに使って欲しい」「安心して託せる団体を見つけてほしい」、そうした願いをもとに運営されています。

私たちが活動しているロータリー財団も、実はこのチャリティーナビゲーターから、非常に高い評価を得ています。

ロータリー財団が、16年連続で最高評価「★★★★(4つ星)」を獲得している。

これは、すべての評価対象団体(23万)のうち上位1%のみが到達できる水準です。

ご覧のスライドにもあるとおり、ロータリー財団らチャリティーナビゲーターから、16年連続で最高評価である「★★★★(4つ星)」を獲得しています。

これはどういうことかと申しますと、評価対象となっている23万団体の中で、上位1%に入ると非常に名誉ある評価です。財務の健全性、透明性、社会貢献性など、あらゆる視点で高い水準を保ち続けているという証です。

しかし、我々ロータリー財団は16年連続という継続性がきわだっている点に、ぜひ注目していただきたいと思います。

我々ロータリークラブは、こうした国際的な評価を受けている団体であり、そのかつどうはまさに世界に誇るべきものです。

一般的な寄付金における管理費の目安

管理費割合	評価・印象
0~10%	非常に効率的。高い評価を受けやすい。
11~25%	標準的。多くの非営利団体がこの範囲に収まる。
26~40%	やや高め。組織の説明責任が求められる。
40%以上	管理費過大と見なされやすく、透明性が問われる。

一般的な寄付金における管理費の目安

管理費割合	評価・印象
0～10%	非常に効率的。高い評価を受けやすい。
11～25%	標準的。多くの非営利団体がこの範囲に収まる。
26～40%	やや高め。組織の説明責任が求められる。
40%以上	管理費過大と見なされやすく、透明性が問われる。

続いて、寄付金の管理費に関する話題です。

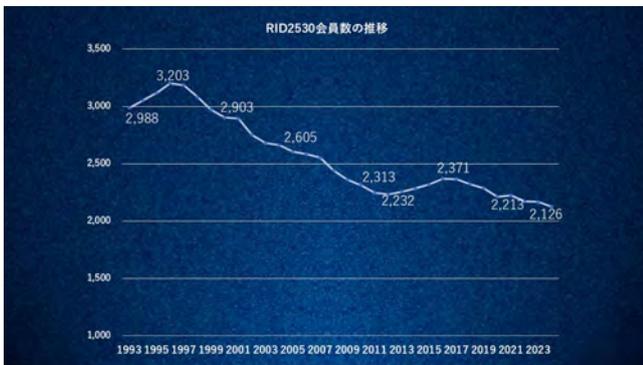
ChatGPTに「一般的な寄付金における管理費の目安はどのくらいか」と尋ねてみました。すると、おおむね11～25%ぐらいが一般的だという答えが返ってきました。

ところが、我々のロータリー財団では、その管理費がわずか「5%」なんです。非常に効率的に運用されていることが分かります。

さらに驚くべきは「米山記念奨学会」です。こちらは、なんと「3%」という驚異的な低さ。国内最大規模の民間奨学金制度でありながら、これだけ効率よく資金が活かされているのは、本当に素晴らしいことだと思います。

つまり、我々が行う寄付は、他の団体と比べても非常に「効果的」であり、社会に対する「影響力」も大きい寄付だと言えるのではないのでしょうか。

こんなに素晴らしい団体が私たちロータリーなのです。



さて、少し現実的な話になりますが、こちらをご覧ください。

これは、第2530地区の会員数の推移です。

1996年度には3,203人だった会員が、今では2,126人にまで減少しており、およそ3分の2に減っている状況です。

問題は、人数が減ると同時に、クラブの収入も減少し、さまざまな活動に使える予算が削られてしまうという点です。

事業費を減らさざるを得ない場面も増えていきます。しかも、物価の上昇や固定費の増加も重なって、状況はなかなか厳しいのが現実です。

これは、地区も、そして皆さんのクラブも共通の課題だと言えます。

先日辞任したマリオ・カマルゴRI会長エレクトが、「人間と同じように、組織も日々衰えていくものだ、我々のすばらしい事業を継続していくには1にも2にも3にも会員増強が必要だ」とおっしゃっていました。

私たちが誇りをもって行っている素晴らしい活動を、これからも未永く続けていくためには、やはり「人的資源の以上・拡充」、つまり「会員の増強」が絶対に欠かせないということを、改めて強くお伝えしたいと思います。

## 事業方針

- ・新会員セミナーを地区で開催
- ・充実した例会開催のサポート
- ・公共イメージの向上
- ・参加型のクラブ運営

ここで、本日のまとめとして、あらためて地区の事業方針を整理してお伝えします。

まず、「新会員セミナーを地区で開催」すること。

これは、ロータリーの魅力をよく深く知っていただき、仲間とのつながりを広げてもらうための大切な場です。

PGの皆さんから直接お話を聞いたり、県内の他クラブのメンバーと交流を深めたり、同期との絆をつくる機会にもなります。

次に、「例会の充実化」です。

ロータリー活動の基本は、やはり毎回の例会にあります。

その例会がより魅力的なものとなるよう、地区としても卓話バンクの設立などを通して、積極的にサポートしてまいります。

三つ目が、「公共イメージの向上」です。

会員減少の背景には、「ロータリーが何をやっているのか伝わっていない」という現実があります。外部へのPRだけではなく、クラブ内に向けても活動の意義を共有することが、退会防止にもつながります。

そして最後に、「参加型のクラブ運営」。

一部の委員会だけが奮闘してき、という状況ではなく、委員会のメンバー全員が計画段階から関わり、「自分たちの事業」として推進していく。そういった関係性が、ロータリー活動をより充実させるカギになると考えています。

「よいことのために手を取り合って」活動を続けていきましょう。」

以上で、私からの報告とご挨拶を終わらせていただきます。

本日は、最後までご静聴いただき、誠にありがとうございました。

よいことのために手を取りあおう



## 相良 元章ガバナー補佐 あいさつ

皆さま、こんにちは。  
このたび今年度、県北第一分区のガバナー補佐を拝命いたしました、相良元章です。  
福島中央ロータリークラブの皆さまに、こうして初めてご挨拶の機会をいただけたこと、大変光栄に存じます。

今回この役職をお引き受けするにあたり、私が強く意識したのは、「例会の力をもう一度見つめ直したい」という想いでした。  
そこで、今年度のテーマとして掲げたのが、「例会ルネサンス」——例会の再生と進化を目指す取り組みです。

ルネサンス、すなわち“再生”。  
これは決して過去を否定するものではありません。  
これまで積み重ねてきたロータリーの精神と伝統をしっかりと継承しながら、今の時代にふさわしい形で、例会をもう一度“息づかせる”こと。  
それが私の目指す「例会ルネサンス」です。

昨今、働き方や価値観の多様化により、例会への参加が難しくなっているという声もよく耳にします。  
一方で、「あの例会は良かった」「また参加したくなる例会だった」と感じる瞬間も、確かにあるはずですよ。

私は、例会をもっと「楽しく」「学びがあり」「仲間とのつながりを実感できる場」にしていくことが、クラブの活性化につながると信じています。

形式や方法にとらわれず、柔軟な発想で、一人ひとりが誇りと喜びを持って参加できる例会——  
そうした場を、皆さまと一緒に創ってまいりたいと考えております。



ガバナースピーチ



ガバナー入場



ガバナー補佐あいさつ





前列左から 吉田 政輝浪江RC理事 三宅 一秀分区幹事 岩見 孝之区幹事  
平井 義郎PG 鈴木 努会長 泉田 征慶ガバナー 相良 元章ガバナー補佐  
芳賀 裕PG 小黑 敬三地区代表副幹事 菅野 幸一幹事

## 幹事報告



菅野 幸一幹事

- 1) 各行事出欠の締め切りのご案内をいたします。9/28開催「スポGOMI大会」は本日まで、8/28開催「福島21RC交換留学生歓迎例会」は明日8/21まで、10/4開催「地区大会親善ゴルフ大会」は8/22まで、「地区大会」は8/25までです。それぞれ登録がまだの方は至急事務局までお申し込みください。
- 2) 次週の例会は、8月27日(水)18:30～エフズサンパレスにて「納涼家族夜間例会」です。グローバル補助金留学生のオンラインスピーチも予定しております。ぜひご家族でご参加ください。
- 3) 同日例会前の17:00～は、ウィズもとまちにて「8月度定例理事会」です。理事役員の皆様はご出席をよろしくお願いいたします。
- 4) 本日、閉会点鐘後に記念撮影を行いますので、そのまま会場にお残りください。速やかに撮影できるようご協力をお願いいたします。

## ニコニコBOX委員会報告

川瀬 哲雄委員長

■鈴木 努会長

泉田ガバナー・地区役員・分区役員の皆様  
ありがとうございます

■平井 義郎PG

泉田ガバナーようこそおいでいただきました

■芳賀 裕PG

泉田ガバナー、相良ガバナー補佐の訪問を歓迎して

■穴戸 宏行会員

ガバナー公式訪問を歓迎して

■丹野 良一会長

3ヶ月間(110日)リハビリして生きて帰ってきました  
丹野浦島太郎の気分ですが、ありがとうございます

■山田 稔会員

泉田ガバナー公式訪問ありがとうございます

安藤 正道会員  
石橋 真一会員  
植木 博隆会員  
梅津 寿光会員  
大出 隆秀会員  
鍛冶 輝雄会員  
亀岡 政雄会員  
川瀬 哲雄会員  
菅野 幸一幹事  
小林 潤子会員

今野 朗会員  
紺野 信会員  
斎藤 高紀会員  
齋藤 康隆会員  
坂本 和司会員  
佐々木 臣樹会員  
佐藤 和子会員  
佐藤 元彦会員  
穴戸 宏行会員  
菅谷 敏会員

鈴木 努会長  
丹野 良一会員  
芳賀 裕PG  
平井 義郎PG  
箭内 一典会員  
山田 稔会員  
渡部九二五郎会員  
渡邊 英世会員

目標 150万円

本日の投入額 28件 51,000円

累計 190,331円



# 第2530地区RAC会長・幹事会報告

福島中央RAC 鈴木 奈々江会長

2025年8月16日(土) 16:00～  
ニュータージマハル(郡山市)



2025-26年度の各クラブの活動計画を発表しました。

福島中央RACとしては、直近の須賀川の花火大会への協力をお願いしました。

各クラブとも、会員の減少が大きな問題となっていて、年間計画が立てられていないクラブもありましたが、RACの場合はクラブを超えて他クラブの活動に協力していこうという気持ちが強いです。協力をし合い、お互いのクラブの活動が活発になるように協力し合いながら1年間頑張っていきます。

今年度の大きな地区行事としては、10月26日の青少年会議、11月8日の第一地域代表者会議、5月1

6日の地区年次大会、12月に実施する山形と合同のスポーツ交流会があります。郡山西RACがメインの運営ではありますが、みんなで協力して準備を進めていくことになります。

今回の会長幹事会には、ガバナーの泉田様にも出席していただきRACの今年度の活動やRACがおかれている現状を理解していただきました。RAC、IAC、Rotex、米山が、単独の活動にとどまらず、横の連携が取れるようにしていきたいという考えがあり、そのためにもRACの協力が必要不可欠であるということをおっしゃっていました。

